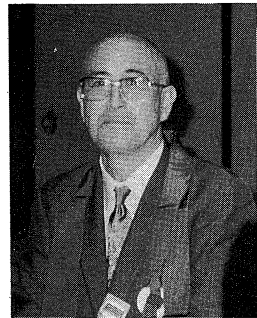


市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045(661)0166

年頭のご挨拶

横浜市仏教連合会会長 森山正城



デオ構成が副会長の玄野師のご苦勞で出来上りました。各区一本つつ持ち帰っていただきましたので機会がございましたら是非ご覧になって下さい。よく出来ていると思います。

新春を迎え、お目出とうございます。昨年は雲仙普賢岳をはじめ、内外共に色々ありました。一日も早く平静な日々が参りますようお願いする次第です。

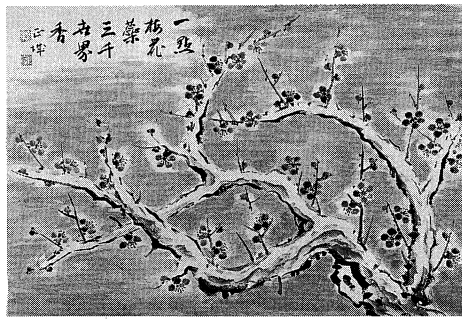
今年には墓地委員会が出来まして種々活躍される事と思ひ、期待しております。委員長の奈良光雄師を中心に大勢の方々にご協力を頂き、幅広く諸問題と取り組んで行きたいと思ひます。

昨年は釈尊奉讃会の主催で岐阜方面の五ヶ寺を参拝して来ました。多数の方々のご熱意と親睦も合わせて楽しい旅行が出来ました。ひとえに皆様のご協力と感謝致しております。私も妻同道参加させて頂き、色々にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

次回は仏教会主催で六月十六日に成田山新勝寺と潮来方面と予定しております。是非ご参加下さい。昨年十二月の理事会でお話し申し上げましたが、明倫学園で行われた市仏連再発足四十周年と横浜市釈尊奉讃会創立十周年記念のビ

平成四年一月十日午前十一時より大本山総持寺に於て年賀拝登が

催された。当日は神奈川県の曹洞宗寺院が、大本堂(大祖堂)に参集し開山太祖常濟大師をはじめ歴任諸位大和尚に拝登をした。その後、侍局へまいり市仏連名誉会長であられる梅田信隆陛下に新年の御挨拶を申し上げた。



梅花図 森山正城 老師 画

白萩
 梅田信隆

市仏連名誉会長 大本山総持寺 貫主 梅田信隆 禪師 御染筆

謹賀新年

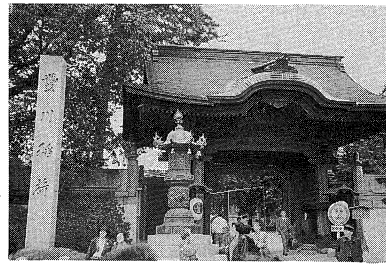
横浜市仏教連合会

- 名誉会長 梅田信隆
- 顧問 志村慎吾
- 顧問 柳下隆侃
- 参与 福永隆昭
- 参与 横山敏明
- 会長 森山正城
- 副会長 滝川覚道
- 副会長 兼会報編集長 玄野孝善
- 専務理事 川上敬吾
- 会計 橋下賢明
- 会報担当 備前恭忍
- 税務委員長 斎藤隆法
- 墓地委員長 奈良光雄
- 監事 野沢隆幸
- 監事 内野公雄
- 他役員一同



秋の仏跡参拝

東海道・木曾路・美濃路の寺々へ



豊川閣総門 明治十七年改築

平成三年十一月十四日(木)、午前八時四十五分頃、釈尊奉讃会主催の秋の仏跡参拝旅行の参加者八十五名が東名高速海老名サービスエリアで合流、出発した。

正午頃、愛知県豊川のトヨカワイナリの門前食堂で昼食をとる。円福山豊川閣妙厳寺は曹洞宗で、本尊は千手観音菩薩である。道元禅師の弟子で入宗国体験の寒厳和尚が感得した守護神の吒枳尼真天(ダキニシンテン)像を法孫の東海義易和尚が妙厳寺開創の嘉吉元年(一四四一)に伽藍神として勧請。豊川稲荷信仰の始まりである。三万四千坪余りの境内に総門、山門、鐘楼堂、法堂、本殿、奥の院弘法堂などの建造物が大小合わせて百ほど建ち並ぶ。先ず本殿を背景に参道で記念写真を撮った。立願所より入り、本殿でこ祈禱を拝

受した。十名の僧が出仕され、真言密教の修法を取り入れた大般若転読法要であった。稲穂を荷い、宝珠を捧げ、白狐にまたがり、眷族が随う姿である。南無豊川吒枳尼真天とオンシラバツタニリウンソワカ(この神咒を唱えれば、信心はどこまでも通じて、正しき戒力に上り悪事災難を除き、福徳智慧を得、苦を抜いて楽となし、悲しみを転じて喜びと成すの意味)の真言を我らも共に唱和した。

宝珠は豊川稲荷の綻文で、**ち**と発音する悉曇梵字、除障招福の印である。暗い本殿を退出し、千手観音を祀る本堂に入り、森山正城市仏連会会長が導師をされ、一同で般若心経を誦誦し、開白動行。

二時半頃豊川を出発し、小牧インターで中央高速に移り、岐阜県多治見の古溪山永保寺へは予定より四十分遅れの三時四十分頃の到着となった。天気は晴から曇り空に変わる。永保寺へは横から入って横から帰ってきたみたいで、正面山門の存在を知らずじまいの参詣となった。境内は楓の名所として有名。時節良く、その紅葉と大イチョウの黄葉に目をみはり、土岐川の青い流れを見おろす、自然の地形をたくみに使った神仙境の名勝庭園に息を呑む。庫裡玄関より新造の書院に通じ、山号入りの座布トンに着座。雲水が茶菓を運び永保寺案内と住職著書の般若心経十景の冊子を配。永保寺住職中

村文峰老師よりお話しを賜わる。臨済宗南禅寺派で虎溪山永保寺と称する。開創は夢窓国師、開山は仏徳禅師、正和二年(一一三三)のことであった。豪族土岐氏の外護を得て、室町時代には山内三十三余坊を数える禅刹で、爾来六百年間の世の変遷に従い、当時の坊は残念ながら多く失われた。しかし人々の信仰の結晶で聖域は保たれ鎌倉末期より室町時代にかけての初期禅宗文化を目の当りに見ることが出来る。作庭は禅僧夢窓疎石である。永保寺とは大きな臥龍池をめぐる庭園のものであって、庫裡、方丈、国宝の観音堂と開山堂、無際橋、六角堂、鐘楼、瓦塀に囲まれた禅堂等の諸建物は庭園の中に配置された形となっている。その自然体が人の心を静謐と調和に導いてやまない。当時は仏道修行僧が四十人ほど在道し、雲水育成にたずさわる専門道場で、厳格な側面をあわせもつ。

古溪山永保寺書院絵天井



第十七回釈尊涅槃会要綱

一、日時 平成四年二月十一日(火) 午前十時受付
午前十時三十分法要 十一時記念講演

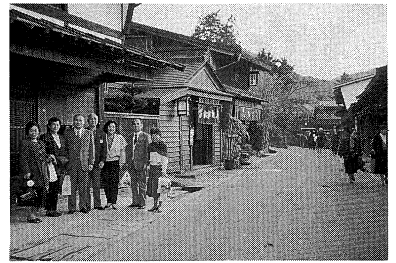
一、ところ 薬王寺 真言宗御室派 住職鹿野融雅師
金沢区寺前二二二一五二 電話七〇一八六四六
京浜急行金沢文庫駅下車 徒歩約十分 称名寺門前
「安らかに生きる」曹洞宗関東東管区布教師で保土ヶ谷区正観寺住職の善浪鉄心老師のお話し
会費無料、但しご香資はありがたくお受けする

一、講演 一、その他

雲水の案内で庭園を拝観、国宝の観音堂の扉を開けていただき、全員が中に入り、麗容尊顔の観音像を拝し、般若心経の法楽をささげた。純正唐様建築の手法が屋根うららでよく見ることができるといって開山堂へも入れていただいた。懐中電灯一つでは充分に見分けられない。石畳の堂内へ下足を脱ぎ入る。日没と共に山川の寒気が足元に忍び寄せ、早々に退堂。山錦、水はくれないの歌碑の如くの景観の視幅を馳走になり、住職の見送りという接心に胸中暖か、虎溪さんを後にした。四時五十五分頃乗車し五時四十五分頃に岐阜県恵那市の恵那峡国際ホテルに着く。七時夕食会。川上敬吾市仏連専務理事の司会で進行。釈尊奉讃会副会長の藤江邦介氏、市仏連顧問柳下降侃師、同顧問志村慎吾師各位の挨拶をいただき、ホテル側で手配した木曾節保存会の芸能を観た。踊りの輪の中に客も混じり、木曾音頭の手ほどきを受けた。九時頃釈尊奉讃会々計で旅行会幹事長の程木徳明師の閉宴のことばで各自部屋に戻り、宿泊。

十一月五日(金) 七時半の朝

食の時に、先般遷化された釈尊奉讃会事務局長の滝田東潮老師を追悼して、森山市仏連会長の発声で黙禱を捧げた。それから外出し恵那峡遊覧のため、大井ダムの人工湖へ下向した。山峡の湖畔は身震いするほど寒く、霧が濃く出航まで二十分も待たされた。朝日が射すとたちまち霧が晴れ、乗船し海岸の奇岩と草モミジ、木々の黄、紅葉に感嘆の声をあげる。下船し九時五十分頃ホテル前を発車、中央道を走る。長野県飯田市の元善光寺へ参詣。菊人形、菊花展の催しがあり、七五三詣りの親子連れで賑わっていた。一光三尊阿弥陀如来を本尊に祀る本堂で住職の熱演する小道具を使った面白い説教に、笑いよじり、涙を流し、死ぬ運命を思い恐怖した。天台宗に属し、推古天皇一〇一年(六〇二)に信州麻績の里の住人、本多善光さんが難波の堀から拾いあげて自宅に祀ったのが起元である。やがて仏像は勅命によって現在の長野市へ移され、善光さんの名を取り、名づけられた善光寺が開かれ、飯田は発祥地として元善光寺と呼ばれるようになった。安置していた



木曾中山道の妻籠宿家並

白が光った、という故事から「座光の白」と呼ばれる白が残っている。座光寺町の地名の由来ともなつた千四百年前の物と伝わる。落語漫談調で示す集印帳や「ひょうたん入り亀のお守り」「ワラジの縁結びのお守り」「英文おみくじ」を皆が求めたので売場は大混雑。善光寺と名がついたり、善光寺式阿弥陀像を祀る寺院が全国に二百二十ヶ寺ほど在るとのこと、宗派を超えた庶民信仰の広がりをもつ住職の好意で、森山師が登礼盤し、木魚、警子も使わせていただき、勤行。般若心経を唱えあげた。朱印納経の人が増えたため、時間がかり過ぎることになった。昼食は一時過ぎ、野沢菜センターで食べた。リングが成っている飯田市の並木通りを抜け、国道一五三号二五六号線と移動し、山また山の木曾路を走行、途中で木地師の里へ寄り、製盆工場を見学し、ロクロ製品を求めた。重要伝統的建造

物群保存地区の歴史を受けた妻籠宿の一角で記念撮影。町には一本の電柱もない。復元された家並を散歩、買物をする。タイムスリップをして江戸時代の旅人になった気分を味わう。その頃の妻籠の宿内惣家数八三件（本陣一、脇本陣一、旅館三一）で、食堂や茶店、その他に往還の稼ぎがあり、大半の住民が旅人の通交関係の収入で生計を立てていたそうである。朱印や買物で手間取り過ぎ、予定していた馬籠宿と藤村記念館は遅くなるので中止となり、残念がる人が多かった。すっかり日暮れた国道二五七号を一行を乗せた富士急行のバスは飛驒の下呂温泉へひた走り、水明館に着く。七時頃より二泊目の宴会が始まった。備前師仏連会報担当が司会進行で港北区仏会会長高橋哲英師、釈尊奉讃会副会長長夫人の尾崎町子様、市仏連副会長長夫人の玄野公余様、市仏連会長夫人の森山美奈子様等がご挨拶

飯田市元善光寺本堂で勤行



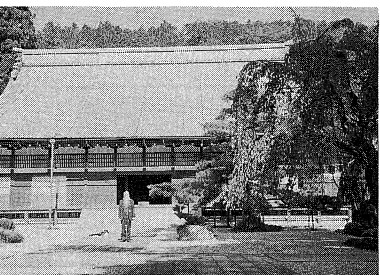
をされた。伝統芸の飛驒獅子太鼓の妙技を堪能、ノド自慢の面々がカラオケに興じ、親睦の輪が広がった。九時頃おひらきとなる。下呂温泉水明館を十一月十六日（土）朝八時一〇分出発し、予定になかった岐阜県益田郡萩原町の禅昌寺を参詣する。平安時代の恵心僧都源信が観世音菩薩の尊像を安置した桜洞草庵が始まり。幾多の変遷があり、天文二十三年（一五五四）再復興された。龍澤山禅昌寺と号し、天下十刹古禅林、勅願所であった。臨濟宗妙心寺派。建造物も大きく多数棟あり、金森宗和の作庭の萬歳洞のドウダンの紅葉が燃えたつようだった。雪舟筆大達磨像の古画を拜見、禅昌寺大杉は国の天然記念物。松の雪吊りも美しい。本堂で般若心経を唱えた。住職は留守だったが、たくさんの朱印をお願いしたにもかかわらず、坊守が一人で丁寧に引き受けて下さり、色々と親切な応対

禅昌寺境内鐘楼と雪吊り



に感心した

美濃井深の正眼禅寺法堂



に感心した 国道四一号线を南下し、美濃加茂市伊深にある臨濟宗妙心寺派の専門道場の正眼禅寺を訪門。雲水は托鉢に出て、知客和尚一人が留守番中。由来記や案内は皆無の寺。妙心寺奥の院とも呼ばれ、荒行で広く知られ、江戸末期から鬼僧堂といわれる禅道場。鎌倉末期関山慧玄国師が隠れ住み悟後修行した靈地である。その後、江戸時代初期に大極和尚によって創建された。境内は広く深い、木立の中の石段を上がるとうっそうとした老杉に囲まれて山門（正眼専門道場、碧巖録提唱の看板がかかる）、壮大な本堂、庫裡、禅堂などが並ぶ建物は明治時代の再建。観光拜見の目的の入山はお断りします。と立札が出ている。許可を得て入山、本堂で導師森山師、維那川上師、木魚程木師のもと、般若心経を唱え、結願法要を営んだ。本堂前で全員合同の記念写真を撮る。朱印

押しが了るまで境内で待つこと久しく、穏やかな秋光を浴びて明るい正眼寺はあくまで静寂。のんびりと過す。寺域のはずれに国際禅堂や正眼寺短期大学の新しい建物が在る。雲水は約二〇名位らしい。関市は関の孫六の刀鍛冶で有名な。現在は刃物の町と知られそのセンターを見学、ショッピング。十二時半頃小牧インター近くで昼食。名古屋名物きしめんであった。東名横浜インター着が夜の八時頃となる。木曾、美濃方面の臨濟宗古刹を中心とした二泊三日の仏跡参拝も無事成満できた。すばらしい感銘深い旅であった。

次回旅行案内

日時 平成四年六月十六日（火） 行先 成田山新勝寺と水郷の潮来方面（千葉県）

（吉水保子様）二名。同区龍長院（近藤智恵子様）九名。旭区長昌寺（玄野公余様）十三名。瀬谷区長天寺（三田啓子様）五名。同区徳善寺（尾崎町子様）二名。同区善昌寺三名。同区西福寺（備前恭忍師）九名。多数のご参加、ありがとうございます。釈尊奉讃会役員の皆様、ご苦勞さまでした。

賀 春

祈 万 民 豊 樂

横浜市仏教連合会会長

臨濟宗建長寺派福聚寺住職

森 山 正 城

〒240 保土ヶ谷区岩井町五六
電話 七五一五五九四

浄土真宗本願寺派

善龍寺住職

齊 藤 幸 紹

〒221 神奈川区斎藤分町三三
電話 四九一―九四三一

横浜市仏教連合会常務理事

緑区仏教会長

斎 藤 隆 法

〒226 緑区池辺町二二九六
電話 九四一―一三六六

横浜市仏教連合会常務理事

神奈川区仏教会長

守 長 尚 文

〒221 神奈川区高島台一十二
電話 三二二―〇一九一

横浜市仏教連合会参与

神奈川県仏教会長

福 永 隆 昭

〒232 南区三春台一三三
電話 二三二―五七五四

横浜市仏教連合会副会長

磯子区仏教会長

滝 川 覚 道

〒235 磯子区坂下町四一九
電話 七五一―七一〇四

横浜市仏教連合会専務理事

臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

〒230 鶴見区東寺尾一一八―一
電話 五七一―一七〇一

横浜市仏教連合会顧問

真言宗智山派観音寺住職

柳 下 隆 侃

〒222 港北区篠原町二七七七
電話 四三一―一四三四

横浜市仏教連合会顧問弁護士

遠 藤 隆 也

〒110 東京都台東区東上野二一八―一七
電話 〇三―八三二―二八一九

横浜市仏教連合会副会長

保土ヶ谷旭区仏教会会計監査

玄 野 孝 善

〒241 旭区さちが丘五九九
電話 三九一―一三七九

曹洞宗長昌寺住職

賀 春 祈 万 民 豊 樂

横浜市仏教連合会会計
浄土宗浄念寺住職

橋 下 賢 明

〒233 港南区野庭町一八四三
電話 八四二一七二八八

横浜市仏教連合会参与

曹洞宗西有寺住職

横 山 敏 明

〒231 中区大平町九六
電話 六六一〇一六六

横浜市仏教連合会御用達

東海ビーエス観光株式会社社長

真 川 明

〒232 南区西中町一一九
電話 二四二一七四三四

横浜市仏教連合会常務理事
泉区仏教会長

曹洞宗東泉寺住職

関 水 宗 孝

〒245 泉区下飯田町七四三
電話 八〇二一八〇九七

横浜市仏教連合会常務理事

鶴見区仏教会長

曹洞宗建功寺住職

枅 野 信 步

〒230 鶴見区馬場一一二一一
電話 五七一一一四六五

横浜市仏教連合会報担当

真言宗豊山派西福寺住職

備 前 恭 忍

〒246 瀬谷区橋戸三一二一一二
電話 三〇一一六一三四

横浜市仏教連合会常務理事

金沢区仏教会長

真言宗御室派慶珊寺住職

佐 伯 隆 定

〒236 金沢区富岡東四一一一八
電話 七七二一三二六四

横浜市積尊奉讃会副会長

藤 江 邦 介

〒240 保土ヶ谷区岩井町三二二
電話 七三一一一七九六

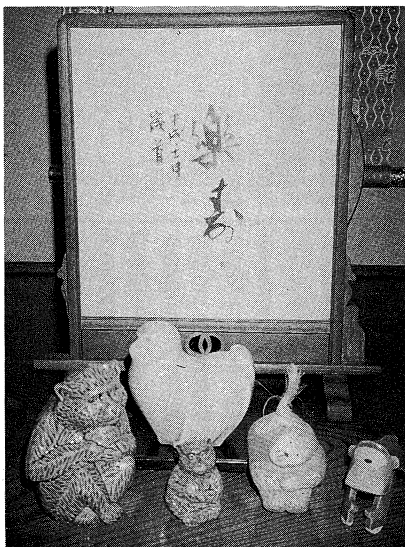
横浜市仏教連合会常務理事

西区仏教会長

臨濟宗建長寺派円定寺住職

蟹 沢 良 元

〒220 西区久保町五二一一
電話 二三一一二二四八



支部だより

瀬谷区

一、八幡神巡礼ガイド作製、史跡巡りやハイカーの利便を考え地図に距離、縁起、関係機関等を入れ、カラー版で親しみ易く改訂し、寺院や関係施設にも備え、希望者に提供している。また一月十一日には日本テレビでも放映され、新年の贈りものとなり、主都圏の千葉や東京辺りからも参拝者が見えている。

二、歳末助け合い基金として、例年区の善意銀行に代表者が出向いて贈る。区長等も交えて寸談する。有効利用されることを希い、希望者の一端を続けること、十数年になる。

三、雲仙災害にも救済金を神奈川新聞社を通して送る。早速、日本赤十字社神奈川支部長の長州一二氏より感謝状が贈られた。一日も早い立ち直りを一同祈念する。

四、市仏連の墓地専門委員に三田裕道長天住職を、また税務専門委員に柳澤柳丸最勝寺住職をお願いし、両師も各委員就任を承諾された。

以上のような種々の会合と行事を実施する中で寺院の在り方、問題について話し合う。解決への努力は寺院の地域における意義と展望を開く意味において大事なことと思う。市仏連各位のご指導を仰ぎ、併せて御発展を念じつつ筆を置きます。 合掌

金沢区

金沢区仏教会では、昨年七、八両月、区内寺院の施餓鬼法要の際、雲仙普賢岳災害の救済募金を行い合計九四万八三〇八円の浄財の喜捨を受け、神奈川新聞社、読売新聞社を通して現地に送金した。これに対し十月、日本赤十字社より感謝状を贈呈された。

九月八日、金沢区公会堂に於て区仏、並びに区釈尊奉讃会主催の第四一回金沢仏教文化講座を開いた。当日の講師演題は次の通り

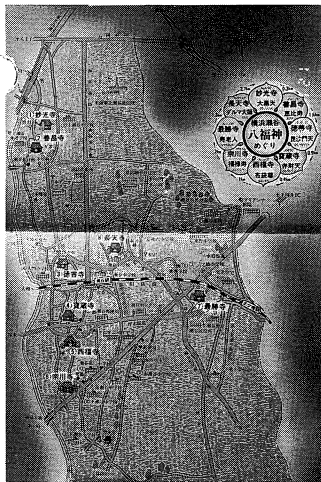
○北条祐勝先生
鎌倉周辺の初期真宗教団

○西米武治先生
心の健康、体の健康

十月十九日 称名寺に於て、第三〇回交通安全祈願法要を執行し、並びに交通安全祈願法要を執行し、多くの遺族及び行政関係者の出席を得、懇ろにその菩提を祈った。

●これからの予定
平成四年一月二四―二五日
区仏釈尊奉讃会合同で、伊豆七福寺めぐり一泊旅行を実施する。

参加者一〇七名の予定
正月十一日 市仏連合会と合同



で涅槃会を実施の予定
会場、金沢町 葉王寺

鶴見区

区仏の会員は三十五ヶ寺、殆ど各宗派を網羅しています。昭和の始め横浜市が生れる頃、この辺りが橋郡旭村と云われた頃、当時の旭仏教会が発展解消して現在の組織になったもので、極めて歴史の古いものです。

年中行事は歴代の会長さんから伝承されたもので

一、釈尊降誕会 区内を八地域に分け毎年地区持廻りで開催

一、川施餓鬼会 仏教婦人会の主催で仏教会が後援、七月下旬、鶴見川畔で開かれる。

その他に理事会、総会を開いていますが、ユニークな会合として法人・個人を対象とする税務講習会を五月と十二月に、税務の記入会を新年にと、もう三十年程続いています。それにこの数年來、会員の親睦を兼ねた一泊旅行も行われ、多くの方々の参加をいただいています。

区仏教会には各宗派・会派が参加しているのに拘わらず、単一

栄区

真宗大谷派長慶寺について
当時は、もともと中村山天岳院と名乗り、大船の玉繩にあつて、天台、真言を兼ねた密教の道場であつたと伝えられている。鎌倉時代に三代執権北条泰時、命に依り親鸞上人が鎌倉へ招かれ八幡宮寺の一切経を校合した折、当時の住持である超世も同席しており、上人の学徳に感じ真宗に改宗したと伝えられている。

戦国時代の末に、大阪の石山本願寺は五年間に渡って織田信長と一向一揆を構えた。当時の住持、実好普古も刀を持って大阪へ馳せ参じ本願寺門主顯如の長男である教如の側近として、織田軍と戦った。結局、徳川家康の仲介に依り本願寺と信長は和睦したが、長男の教如は最後まで戦いの続行を主張したため、和睦成立後、若くして隠居させられる事となった。

実好普古が、ひとまず玉繩に帰ってみると寺は小田原北条の焼き打ちに合つて焼失していた。しかたなく現在地に移り、粗末な草庵を建て住していたが、度々上京しては隠居させられた教如を訪れ、お慰めしていた。

その後、教如は家康と親交を厚くしていった。教如のそばに仕えた普古も家康に拝顔することを得たという。普古が草庵に戻つて念仏の生活を送っていた時、家康は鷹狩りに、この地を訪れ水を所望された。その時水を差し出した普古と再会した。家康は普古から事情を聞くと、境内寺領と本堂再建の資金を寄進し、家康ゆかりの寺として、これを保護したという。

長慶寺という名称は、慶長年間(1596-1615年)に建てられた為と伝えられている。当時は明治十三年に火災のためすべてを焼失したが、家康から拝領した茶碗だけが残っている。

栄区中野町四〇 長慶寺住職 中村良照

泉区

創立日も浅い当区仏は今のところ相互親睦と市仏連等への協力につとめています。

ここで一寸泉区を紹介しますが、昨年相鉄支線が延長され、漸く中央部に駅も新設されました。長年にわたる交通不便の地、一部を除きいまだに辺境の農村地帯の風情で、寺もこの緑豊かな田園風景の中に点在しています。

区内寺院堂頭諸師よくこの環境のもと道心堅固、活発に活動を展開しております。因みに昨秋は岡津町の普光寺で本堂客殿の落慶、続いて本年秋は、同町永明寺の本堂庫裡を含む諸堂の落慶、普山結制の盛儀が予定されております。

区内寺院堂頭諸師よくこの環境のもと道心堅固、活発に活動を展開しております。因みに昨秋は岡津町の普光寺で本堂客殿の落慶、続いて本年秋は、同町永明寺の本堂庫裡を含む諸堂の落慶、普山結制の盛儀が予定されております。

支部だより

戸塚区

倫勝寺の落慶式

昨年十一月十六日に新たに戸塚区仏教会に加入された、川上町の曹洞宗霊源山倫勝寺の本堂並びに鳳倫閣の落慶法要が厳修されました。当日は肌寒い日でしたが、曹洞宗の大本山総持寺管主梅田信隆猊下を御導師にお迎えし、各宗僧侶三百名、又檀信徒千五百名が参列して盛大に行われました。

倫勝寺は元々は東京都江戸川区に在ったお寺ですが都市計画により川上町の地区に移り、新たに建立された寺院です。囲りに東戸塚霊園の合掌の郷と鳳倫閣という檀信徒研修道場兼ねた本堂を備え檀信徒の教化に努められています。御住職の馬場道男師のお話では夏には近隣の住民の方々や子供達を集めて夕涼み会を行い、早くこの地域に夕涼み会を行い、早くこればとお考えのようです。

港北区

去りゆく年平成三年、世界中がゆらいだ激動の年でした。それもいつの日か過去の出来事の様に忘れ去られる事でしょう。この年に港北仏教会では妙蓮寺様を会場に花祭りを実施。永昌寺様観音寺様東照寺様の幼稚園児と保福寺様

観音寺様の御詠歌詠の方々の御協力御参加によりまして盛会裡に終わりました。又七月には夏の風物詩の鶴見川花火大会に参加、仏教会員各位の御協力によりまして見物人各家区内各家の先祖慰霊のため灯籠流しに合せて読経を四十分位の間夜空にひびけと続けました。万余の見物人も一時静かになりました。そして慰霊法要を終りました。御随喜の寺院各位には厚く御礼を申し上げます。その後に上大岡の泉慰霊堂にて真福寺松田老師導師の許、慰霊法要を行いました。十一月には市仏連の秋の一泊旅行に参加等にて一年間もあつと言間に無事終了。区内御寺院各位及び市仏連の各師に厚く御礼を申し上げ筆を置きます。

計 報

藤井真水師

南区平楽の高野山真言宗増徳院住職藤井真水師は、平成三年八月八日、八十三歳で遷化された。そのご本葬は同年九月十八日に営まれた。本会の周年記念大会を明倫高校で挙げる際には、会場提供と賛助の面で特別にご高配を賜ったことが記憶に新しい。

師は横浜明倫学園理事長を務め、仏教を通じての国際親善に尽力され、国際派住職として有名であった。高野山真言宗から派遣され、昭和七年にタイ国へ留学。宗派内外の要職を歴任された。自坊に阿字観道場を設け密教禅を普及。

滝田東潤師

港北区篠原町の曹洞宗東林寺住職滝田東潤師は、去る平成三年十月二十二日に遷化されました。本葬は、平成三年十月二十九日東林寺本堂に於て、ご本寺大庭の宗源院住職のご導師のもと約八十名からの僧侶の読経でしめやかにとり行なわれました。

雑 感

○今年壬申(みずのえ・さる)の年を迎えたのであるが猿年でもある。壬は赤子を宿す意、申は背のびの意味の象形だそう。内に豊かな精気をはらみ、それが伸び伸びと外へ発現しようとすることを示す干支といわれる。

○意馬心猿とは煩惱妄念のために心意が散乱しているさまをいう。凡夫の心情でもある。有名な『西遊記』は天界の暴れザルが三蔵法師の同伴をし、西天取経へ旅立ち、護法の仏子、孫悟空になり大活躍をする物語である。

○寺院では何らかのかたちで、毎年正月に修正会を行う。旧年の悪を正し、新年の吉祥を祈る法会である。パブルではじけるお金や権力に対してではなく、かぎりなく尊い仏様に対して祈る。共に広く

一切の人の幸せのためにひたすら祈る。自ずと仏心の芽が育つ。

○営利追求の企業がボランティア休職・休暇制度を導入し、社員を地域活動やボランティアに参加させる実例が増えつつある。東京ガスでは「収入全額保証」の異例方式で社員の社会貢献活動支援のためのボランティア休暇制度を実施

○昨年十月に「葬送の自由をすすめる会」(安田睦彦)が相模灘で故人の遺灰をまく散骨(自然葬)を行った。法務省も「社会的節度を守るならば」と黙認をした。これをきっかけとして、寺や霊園業者が散骨への対応を考え始めたようである。死後を選ぶ自己決定権も高まりつつあるなどと自然葬の会々長が発言される。

○看取り、脳死と臓器移植、安楽死等も困難課題だ。葬をめぐって業者のサービス過剰が目立つたり、某会では同志葬、俗名葬と銘打ってはばからない。『手づくり葬儀』や批判的立場からの島田裕巳氏の『戒名』等の本が売れている。

○我利我執が蔓延の世紀末に自戒を込めて唱える錫杖経の捨悪持善の段。まさに衆生を願うべし、十方一切の無量の衆生、錫杖の声を聞かば憐念の者は精進し、破戒の者は戒を持ち、不信の者は信ぜしめ、慳貪の者は布施し、瞋恚の者は慈悲し、愚痴の者は智慧ならん、傲慢の者は恭敬し、放逸の者は心を撰め、具さに万行を修し、速やかに菩提を証せん。

文責 備前恭忍

思い出



区 仏 役 員 名 簿

鶴見区	会長 榎野信歩 建功寺
副会長 川上敬吾 松蔭寺	
会計 荒原光春 光永寺	
理事 橋本正博 智広寺	
森本祐堂 良忠寺	
中田隆勲 金剛寺	
赫田正圓 円光寺	
野沢隆幸 正泉寺	
松阪秀宏 宝泉寺	
白石謙祐 正行寺	
横井久運 宝泉寺	
神奈川区	本覚寺
西 区	守長尚文 本覚寺
會長 蟹沢良元 円定寺	
副會長 都築哲信 勤行寺	
會計 奈良光雄 洪福寺	
監査 織田正尊 順忍寺	
顧問 吉田密淨 大聖院	
西効良光 久成寺	
中 区	円満寺
會長 上柳數明 東福院	
副會長 田畑亮積 慈音寺	
南・港南区	常清寺
會長 片山宣英 常清寺	
保土ヶ谷・旭区	
會長 志村諭孝 東光寺	
副會長 石井亮敬 妙蓮寺	
中島旭明 天徳院	
森山一城 福聚寺副	
安達信宏 大仙寺副	
林田真成 見光寺	
磯子区	
會長 滝川寛道 海照寺	
金沢区	

港北区	會長 佐伯隆定 慶珊寺
副會長 高橋哲英 保福寺	
綠区	會長 斎藤隆法 福聚院
副會長 雲井孝 真照寺	
柳下教学 妙蓮寺	
北田智昭 観護寺	
安田正克 宝侍寺	
野村泰秀 東観寺	
戸塚区	
會長 西尾俊雄 高松寺	
副會長 吉水法雄 西連寺	
里見嘉嗣 大連寺	
北見秀明 雲林寺	
山沢昌雄 西立寺	
福田俊光 圓福寺	
秋田展由 萬松寺	
近藤光匡 龍長院	
長谷川昌光 光安寺	
永原文雄 清源院	
桜井一溪 北天院	
瀬谷区	
會長 尾崎正恵 德善寺	
副會長 青木大憲 宝蔵寺	
柳沢柳丸 最勝寺	
三田祐道 長天寺	
備前恭忍 西福寺	
藤村宣淨 妙光寺	
泉区	
會長 関水宗孝 東泉寺	
副會長 石田征史 永福寺	
會計書記 塩沢栄一 大誓寺	
星野英秀 般若院	
素明 正翁寺	
鷹巣道孝 光長寺	
田村謙昌 常勝寺	
北 区	
會長 光明寺	

市 仏 連 墓 地 委 員

鶴見区	荒原光春 光永寺
西区	奈良光雄 洪福寺
磯子区	荻部恭明 護念寺副
金沢区	和田大雅 宝樹院
緑区	北田智昭 観護寺
泉区	香川隆敬 中田寺副
栄区	星野英秀 般若院
瀬谷区	三田裕道 長天寺
市 仏 連 税 務 委 員	
鶴見区	赫田順爾 円光寺
西区	都築哲信 勤行寺
磯子区	古河澄久 宝勝寺
金沢区	志村哲雄 金竜院
緑区	野村泰秀 東観寺
泉区	石田征史 永明寺
栄区	菅原紀雄 長光寺
瀬谷区	王園祐道 長木寺

各 区 墓 地、税 務 委 員 一 名 づ つ、早 急 に 専 務 理 事 へ 提 出 し て 下 さ い。

柳沢柳丸 最勝寺

編 集 後 記

◎今年二月十一日(火・祝日・友引)の涅槃会は丁度、各区を一巡して金沢区仏が二巡目の当番となる。午前中に行事を厳修するので間連のないように、参詣下さい。

◎墓地委員長に西区仏副会長で臨濟宗建長寺派洪福寺住職の奈良光雄師が任命され、就役された。税務委員長は緑区仏会長で高野山真言宗福聚院住職の斎藤隆法師が就役されている。両委員会共に委員会はと名ばかりで、今回は各区仏より両会へ委員を一名づつ出した。再構成を図り、種々の

で新役員名簿をご提出願います。次期35号に掲載いたします。

3・5・29 市仏連発発送

3・6・29 三役会 於福聚寺

3・7・20 市仏連発発送

3・8・20 市仏連発 会報

3・9・7 三役会 於福聚寺

3・9・12 市仏連発発送

3・9・15 会報33号編集

3・10・10 市仏連発発送

3・10・24 常務理事会於西有寺

事 務 日 誌

3・11・1 市仏連発発送

3・11・1 市仏連発 理事宛

3・11・6 雲仙義援金発送

3・11・28 三役会 於慶福寺

3・12・3 常務理事会 於桂月

3・12・9 市仏連発発送

4・1・10 連発涅槃会案内発送

4・1・12 市仏連発発送

4・1・13 連発会費納入願

4・1・23 会報34号編集

問題を研修、協議し会員相互の福利に情報を提供します。二月末から三月初め頃に顔合わせ会合を予定している。委員名簿の未提出の区は早急に決めて連絡を下さい。

◎雲仙普賢岳噴火被害者へのお見舞いを二十万円とすることを昨年の十月二十四日の常務理事会で決め、神奈川新聞社を通して現地へ贈った。特別会計より支出。

◎神奈川新聞等には、市仏連会員の記事が散見される。寺でコンサート、弁天堂山門住職手造り、除夜の鐘の寺一覽、磯子、港北区七福神めぐり等々。市仏連会報へも色々な記事を提出下さるようお願いする。

◎穏やかな天候で幕を開けた新年である。大寒に梅咲くと新聞の見出しにあったが、紅梅や水仙の開花は昨年未頃にすでに見られた。

◎仏典に、猿が井土水にうつった月の影をとらえようとすると、井土の中に落ちた話の猿が月というのが出ている。人も、むやみに物をほしがったり、身の程を知らない振る舞いをすれば、禍を受けることを教えたものである。小欲知足を心がけるとところに幸運が招かれ、重なる。皆様のご愛を祈念申し上げます。

◎昨年の十二月三日の桂月会場で周年大会ビデオテープを二十本配布した。五〇分間の内容収録。後日、森山会長から「見た。良くできていたよ」と好評の声をいただいた。未届けの区仏や関係者へは、今度の涅槃会の会場へ持参し、お渡しをしようと思っている。